

セッション NO. 15 『ジャーナリストの役割』

○開催日時：平成27年9月18日（金） 14：00～17：00

○場 所：広野町中央体育館アリーナ

○コーディネーター、パネリスト：（敬称略）

パネリスト

- ▶ NHK 坂本記者 Mr. Sakamoto
- ▶ 福島民友 白坂記者 Mr. Shirasaka
- ▶ 福島民報 須藤記者 Mr. Sudo
- ▶ 河北新報 古田記者 Mr. Furuta
- ▶ 朝日新聞 根岸記者 Mr. Negishi
- ▶ 海外ジャーナリスト（仏国） Mr. Claude-Marie VADROT

コーディネーター

福島工業高等専門学校 副校長 芥川 一則

○参加者数 約30名

○概 要

セッションの進行

1. パネルストの自己紹介
2. 震災からこれまでの報道で印象に残ること
3. 復興に対する現状認識
4. 復興に求められること
5. 復興においてジャーナリストが求められること

ジャーナリストによる震災及び復興の報道について直接意見交換を行った。双葉郡を担当する5名の記者が一堂に会することは極めて希であり、記者同士が意見を交換する機会は震災後はじめてと思われる。

自己紹介後、震災に関わる報道において印象に残ることを話し合った。客観的な事実より震災に対する怒りや悲しみが語られた。また、風評被害に対する取り組み事例として、学校の体育授業における被曝量の比較実験の報道が紹介された。一般の参加者からは広野町及び震災を受けた地域に関する質問も寄せられた。

震災による原発事故の補償問題の報道について述べられた。この報道に対して避難者からの苦情の声も寄せられていた。この意見に対して、取り上げられない報道はない、という意見が述べられた。

震災関連報道においてタブーとされる内容がいくつかある。ジャーナリストはこれらに光を当てることも役割の一つであることが確認された。復興の光と影を報道することで、生きた報道が生まれる。それを担うのがジャーナリストの役割であり、期待されることである。